

## 第1回 射水市文化振興・文化施設在り方検討会 議事録

- 1 開催日時 令和3年8月17日(火) 午前10時～11時45分
- 2 開催場所 射水市役所202会議室
- 3 出席者
  - (1) 検討会委員  
安嶋委員、藤井委員、櫛岡委員、大谷委員、和田委員、広田委員、  
野上委員、加納委員、牛塚委員、伊藤委員
  - (2) 事務局  
市民生活部長、市民生活部次長、地域振興・文化課長、芸術文化振興係長、  
芸術文化振興係員1名
- 4 欠席者 なし

### 会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員及び事務局紹介
- 4 座長選出 安嶋委員を互選
- 5 資料説明
- 6 意見交換

## 文化振興・文化施設の在り方に関する意見交換

(委員)

芸術文化活動を推進するに当たり必要な項目が資料に挙げられているが、実践していくとなると、いろいろ難しい課題がある。市芸術文化協会はここ数年、出前講座など、コミュニティセンターや学校へ直接出向いて市民や児童生徒と一緒に活動している。これまで芸術文化に親しむきっかけになるとあって実践してきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大で、子どもや市民と一緒に手を携えて活動する、このパターンがストップしてしまった。これを乗り越えていく手段を考えなければならず、行政からも今後のコロナ対策を含め、指導いただければありがたいと思っている。

(座長)

出前講座は有効な文化支援である。高岡市でもモノづくりに関わる総合的な学習の時間を取っており、17～18年間続けている。

また、構成メンバーの高齢化の問題やコロナ禍で市民に直接的に接することができない中でICT技術を使う等の代替方法も出てきているが、なかなかそういった新しい取り組みもすぐには難しいものがある。

(委員)

射水市のどの文化施設も個性があってユニークであり、それぞれがまちの宝物であると思う。

大島絵本館は絵本の蔵書が多く、その造形的なデザインの建築や色々なイベントが実施され利用者からの評判は良い。子ども以外の年齢層も含む多くの利用があり、良い印象を持っているとの声を多く聞いた。

竹内源造記念館はユニークであり、体験もできるとのことで素晴らしい。

陶房「匠の里」は体験型の施設として評判は良い。大門地区には凧祭りもあり、これをもっと常設的に取り入れることができないかと思う。

また、新湊博物館の所蔵する石黒宗麿陶芸作品や小杉焼を展示する等の陶芸美術館的な部分があっても良いと思う。

施設の再編にあたり、子どもから若い世代まで印象付けでき、県外に向けては観光資源としてアピールできる、人がたくさん集まる面白い展示物や施設、体験ができれば良いと思う。

アイザック小杉文化ホールや高周波文化ホールは音楽活動に力が入っている施設で、若者達に聞くと射水市はコンサート内容が良いとの声をたくさん聞いた。

美術や音楽いずれにしても、生の体験、ライブ的なものが大切で、たくさん子どもたちに体験させてあげたい。

加えて、射水市には古墳、遺跡などの埋蔵文化財もたくさんあり、それを紹介展示する博物館的なものも大事である。

(委員)

現在、絵画や彫刻等の美術作品が各文化施設に分散して展示され、または倉庫に眠っているという実態がある。過去に、市に対して所蔵作品を一堂に展示し、市民が体験もできる「市立美術館」の新設を要望した経緯がある。

(座長)

射水市には芸術文化資源がたくさんあり、効果的な情報の発信ができれば良い。また、若い人たちが魅力を感じてくれる仕組みが必要。

余談だが、北海道で文化政策学会に参加した際に、東川町という写真で有名な町の町長が、富山県には大島絵本館があると話をされていた。このように、全国から注目するような芸術文化資源が実はあって、地元の人を感じている以上の魅力がある。これらをきちんと情報発信していくことがまず大事と感じた。

(委員)

舞踊発表会等で高周波文化ホールを利用している。県内で1,000人規模のホールを持つ施設は、富山県民会館、オーバードホール、砺波市文化会館と新川文化ホール、高周波文化ホール。県民会館は舞台の広さが不足する。

高周波文化ホールを使う理由は、舞台が広く、客席が大きいというえ、オーバードホールより使用料が安い。新川と砺波は地理的に遠い。

県のほぼ中心に位置する高周波文化ホールは良い舞台だが、場所が分かりにくいことが難点。国道8号線を下りてしばらく新湊市街地に入っていく必要がある。アクセスについてもっとテコ入れすれば良いと思う。

また、大規模な発表会等に臨時駐車場として使用する公園は、降雨で荒れるため、整備して上手に活用していけば、もっと稼働率が上がるのではないかと思う。

また、使用料が少し県の施設よりも高いのでこの点も考慮していただけたらと思う。

保育園・幼稚園の園長に話を聞くと、コロナ禍でお遊戯会の実施に大変苦慮しているとのことだった。遊戯室が狭いため保護者も入室しにくい。そこで、低料金でホールを園に貸し出すなど、話しかけてみたらどうか。小さな頃から文化ホールに来る習慣づけにもなり、お遊戯会や学芸会を誘致すれば必ず父母・祖父母も見に来るので、その際に華道などの展示もするなど工夫し、子どもが大人になったときに地域の文化ホールがどこにあるのかを知らない人はいなくなると思う。

(座長)

高周波文化ホールは良い条件が揃った施設だが、ハードの部分でもう少し整備が必要という意見だった。保育園等に減免措置を講じることで、子どもたちから文化ホールに親しみを持てるのではないだろうか。

実際、金沢市の小学5年生は、金沢21世紀美術館に必ず行くということになっている。今は、ホールの裏方を見学するツアーというのもあり、新しい切り口も工夫されると良いと思う。

(委員)

10年ほど前から小学校校長会の企画として、国の補助事業の一環で劇団四季に高周波文化ホールに来てもらい、市内小学校5～6年生が鑑賞する事業を行っている。特別に午前・午後の2回公演とし、子どもたちに、本物のより良いものを鑑賞する機会を作った。数年前からは1年おきに音楽公演も取り入れるようになった。

(委員)

射水市展について、応募者と来場者を増やしたい思いはあるが、若い人達が市展に魅力を感じていないという根本的な問題がある。出品者数を増やすために落選させないという方針があるが、それが逆にレベルを下げているのではないかという心配がある。市内にアーティストはたくさんいらっしゃるので、どうにかして参加していただきたい。射水市には、市展を開催できる展示室は高周波文化ホールにしかないが、手狭なため市民ホール等も使用して展示している。

黒部市美術館では夏休み期間に出前講座を実施しており、参加した子どもたちは美術館に戻ってくるという仕掛けとなっている。

北海道の剣淵町というところにも絵本館があり、絵本コンクールの審査員がお客さんであることが面白かった。そこで絵本の貸し出しもできるのが良いと思った。

大島絵本館は全国の著名な絵本作家は皆知っている施設であり、お得な年間カードの設定もあるので、もっとアピールすれば良いと思う。

コロナ禍の今、ホールに行かなくても無料で鑑賞できる環境づくりが必要。若い人がマイカーを持たなくなってきており、ライブ配信ができる装置が今後、館には必要なのではないか。

南砺市ヘリオスと大門総合会館の共同企画で影絵の公演を企画したが、東京の方が射水の取材をし、ひとつの魅力的な物語を創ってくれた。アーティストのアレンジ力や演出力で、地域の魅力が引き出せたのは良いことだった。

(座長)

他所の事例や目線を参考にして地域との関わりを作ることで、学生も成長し地域も良くなるような仕組みを作っていくことが大事だと思う。地域や他分野との連携という課題に繋がるが、異分野や新しい繋がりを創っていく視点が大事だと思う。

ライブ配信システムの必要性も感じており、団体ごとにレベルも違うだろうが、一つのシステムを皆で共有すれば、費用も人材も効率的に情報発信ができるようになるはずだ。

(委員)

文化の伝承という観点でお話しする。祭礼当日の様子を見ていただくということで、9月の稚児舞は射水ケーブルネットワーク㈱のご協力によりライブ配信を行う予定である。伝統文化の継承には、高齢化及び少子化に伴う後継者不足と経費的な課題がある。

地元の小学校では、以前から曳山祭等のお囃子の伝承を目的にクラブ活動を行ってきた。

地域同士で交流会も行い、最近では他の地区にも広がりを見せている。児童生徒が集う学校の中で地域文化を大切にしている取り組みである。

市教育委員会ではふるさと学習、ふるさと愛を長年掲げており、いろいろな形で地域の活動が多く出てきている。例えば、下地区では、毎年小学2、3年生全員が総合的な学習の時間と生活科の時間に、伝統文化の稚児舞の舞を地元の師匠から学んでいる。男女分け隔てなく実際に踊ってみる体験をすることで地域の文化に触れてもらっている。

そのほか、6月の初卯の時には工作の時間で豊作祈願の神様を作り、御田植祭を見学して実際に祭りで使用した神様を自宅に持ち帰って神棚に飾る。こういった体験を通し、伝統文化やお祭りに対する理解を深め、次世代に繋げていく取り組みを行っている。学校と地域が連携し、子どもたちに地域の伝統文化に触れる機会を多く作り、課題解決に導いていきたい。

#### (座 長)

伝統産業や伝統文化は高齢化と後継者不足が問題になっている。子どもへの文化浸透はとても大切なことだと思う。金沢市は文化に大変力を入れており、文化振興計画でもアクションプランを定めているが、それでもかなり危機感を持っている。文化都市と言われてはいるけれども、どうやればもっと自分たちの文化に接することができるのかを常に考えている。具体的に文化に関わる制度や仕組みを整えていくことが必要と思う。

#### (委 員)

県民ふれあい公演は、音楽だけでなく、日舞、邦楽、洋楽、詩吟など多くのジャンルがあり、公演を希望するコミュニティセンターや学校等の小規模な施設に芸術家を派遣する事業。音楽については、子どもは興味を持ってやりたがり、興味・関心を持つようになる。触れる機会がなるべく多い方が良い。

10人に1人は吹奏楽経験者といったら良いくらいなので、吹奏楽の催しは今後も行っていきたい。

芸術文化に触れる場の提供として、フレンドシップコンサート in 射水を企画して実施してきた。各学校の吹奏楽を演奏し、楽団のプロの先生を呼んでジョイントするなど、本物に触れ共演する機会を作るコンサートをやってきた。ただ、やはりお金がかかるので、文化振興財団と共催という形で利用料の半額減免を受けている。こういった助成はありがたい。活動を継続するうえで非常に助かっている。普及育成団体として施設側のバックアップを受け、安心して文化活動を続けることができたので、この仕組みは続けていきたい。

高周波文化ホールはとても使いやすいホールであり、高岡のアンサンブルコンテストを高周波文化ホールで開催したことがある。この吹奏楽を通して高周波文化ホールを他市の人たちにも認知してもらえたと思う。

吹奏楽に関わる人数が多いのと、本番では必ず保護者がついてくるので、吹奏楽と何か他の文化事業を抱き合わせることで、集客率が上がるのではないかと。色々な分野とコラボレーションすることで、互いに人を呼び合うことができると思っている。

最後に、子どもへの芸術文化への促進という点で、射水市はとて吹奏楽が盛んであり、多くの学校が良い演奏をして大会でも実績を上げている。各学校で色々な先生をお呼びし、レッスンを受けているのだが、部活動が地域化されて形が変わろうとしている。今まで学校内で行っていた部活動を地域へと移行し、学校の顧問と地域の人が携わるという様式に変わって行く。その中で、本物に触れる演奏会と講習会をセットにする等の取組みを行い、地域化する部活動がすたれないようにすることが大切。このままでは規模縮小やレベルダウンしていくことが危惧される。この機会に、地域とホールが共に取組みを行うことで、これまで積み重ねてきた射水市の吹奏楽のレベルを、これからの子どもたちにも体験させてあげたいと思う。

(座 長)

射水は吹奏楽が盛んというのは知っていた。多くの人に関わってくれる良いきっかけとして、吹奏楽はとて可能性があると感じていて、今後面白い発展が期待できるポテンシャルを持った芸術文化資源だと思う。

(委 員)

「伝統文化を伝え、守る」というビジョンが射水ケーブルネットワークにはあり、伝統文化の稚児舞の中継配信の企画や、去年は新型コロナで音楽関係の方々が全く活動できなかったのも、ロビーコンサートやバンド活動の番組シリーズを作って新たな発表の場を提供し、コミュニティチャンネルを通じて放送した。また、市内の高校から依頼のあった吹奏楽の収録にはすべて対応させていただいた。大門高校には高岡から通う生徒もいるので、高岡市のケーブルネットワークにも掛け合い放送してもらった。

射水市の73%の方がケーブル経由でコミュニティチャンネルを視聴できるので、ぜひケーブルネットワークをお使いいただければと思う。特に芸術文化に関することについては積極的に対応させていただこうと思っている。ケーブルテレビはエリアだけのナローなメディアだが、視聴率は関係なく、ほとんど費用もかからない。

文化施設運営に携わる現場の職員の方の声を聞かせていただくことが多いが、そこでの一番の悩みは、どこかにくっつけられて施設がなくなるのではないかとということで、非常に不安を感じていらっしゃる。

そこで一つの視点として、「削る」ということではなくて、新たに「生み出す」ことも必要ではないかと思っている。行政はそういう視点がないといけない。例えば陶房「匠の里」の場所は、あんなに良い里山はないと思うほどの素敵な所。削るのではなく、観光的な視点も含めて、これをこう変えれば、あるいは、何かを加えれば生まれ変わって新しいことができるかもという視点を持っていないといけない。削ることばかり考えていると何も生み出せない。器を作っているのだから、匠の里で食文化に関わることをしても良いし、色々な形で新しいものを生み出すことを考えていかないといけないと思う。

匠の里のような施設においてもDXが合うのかなと思う。新しい価値を見つけて創造していくというのがDXの狙いでもあり、新しいものを生み出す視点は必要だ。

(座 長)

伝統は守るだけでなく、革新を起こして新しいものを生み出していくことが大事である。金沢を例にとると、守るだけの姿勢では 21 世紀美術館は生まれてこなかった。最初は市民が反対していても新しいものを創造していった結果、今は市民あげて応援するように変わったように、新しいものを入れていくという考えをもつことが大事。財政的には施設の再編が必要なかもしれないが、新たに創造するという観点がないと、じり貧になっていくのではないか。

(委 員)

大島絵本では、月に 1 回の読み聞かせと、歌とお話の会を行っているが、入場者が少ない日もある。本当に良い企画をやっているのに、なぜか人が来ない。大島小学校の子どもたちもあまり絵本館に行かない。今後は絵本館で絵本を借りることができても良いのではないかと思う。

ハンドベルを高岡のボランティアグループに教えているが、大島絵本館のことを聞いても、大人が行っても…という反応である。入場料が高いという声もあり、あまり施設の良さが地元の人に知られていないと感じている。実際に入館すると楽しかったという声が多く、踏み込むきっかけがないのかなとも思う。

毎年夏に実施する絵本館祭りも残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となってしまった。コロナ禍にあってもどうやって宣伝していくのか、先が見えない時代ではあるが、それでもなにか方策を考えていかななくてはならないと感じている。

ハンドベル演奏は何人かで音を担当して演奏するもので、大島小学校で地域の先生として呼ばれて演奏したとき、子どもたちは大変興味を持ってくれ大人気だった。実際に生の演奏楽器に触れる機会がないのかも知れないが、生に触れることが大事で学校のクラブ活動として持っていければ良いのかなとも思う。大島絵本館でもハンドベル演奏を行っているが、いつも子どもたちの目がキラッと輝く。ロビーコンサートなどで色々な場所で演奏できる機会があれば嬉しく思う。

美術館に行くのも大好きなので、美術展をいつも開催している場所が一箇所あると良いと感じている。

(座 長)

せっかくある施設の良さが地元知られていないということだが、北海道の人が逆に大島絵本館のことを良く知っているという事例からもわかる。

情報発信の仕方や使い方、知ってもらうきっかけをきちんと作っていくことが大事と思う。

(委 員)

資料にある入館者数の推移グラフは入館者の年齢構成までは集計していないということだが、入館者数減の原因は単純に子どもの事業参加者数が減っていることでもないよう

な気がする。詳しく分析すればいろいろと面白いことが見えてくるのではないだろうか。

現代は子どもの貧困や格差がキーワードとなっているが、そういう格差というものは放課後と土日に生まれると言われている。つまり学校に行かない時間に格差が生まれており、そこを埋めないといけない。策としてアウトリーチや出前講座もそうだし、例えば、ヨーロッパでは週末になるとどんな素晴らしい特別展であっても館は入場無料となる。それにならって週末は無料にするのはどうだろうか。

少子化で子ども向けの参加者が減っているという点についてだが、私は仕事柄色々な親子にアンケートを行っているが、実際に行く子は行っており、親に連れて行ってもらえる子は、何回でも連れて行ってもらっている。まさに体験に格差が生まれている。単純に少子化だから減っているとは言えず、普段から親に連れて行ってもらえない子をいかに結び付けていくかをぜひ考えていって欲しい。

次に、多様性が文化振興においてもキーワードになる。入館者の多様性、施設で実施するプログラムの多様性がキーになる。異業種のコラボということでは、それぞれの課題と課題を掛け合わせることでウィンウィンの解決に繋がるということがある。例として、保育・幼稚園では子どもの運動能力や自然体験が低下しているという問題があり、一方、造園屋さんは庭の手入れをする仕事が減ったという問題を抱えていた。そこで、保育・幼稚園と造園屋さんがコラボレーションし、園庭を多様性のある庭に改造することでお互いの課題を解決させることができた。この例のように、意外と全く関係の無さそうなものの組み合わせで、問題解決ができることがある。

最後に、今後、市では文化振興に関するアンケートを取るということについて。北米やヨーロッパの博物館や美術館の催しは面白い。なぜかというと、ミュージアムマネジメントを専門にするコーディネーターがいて、客層を緻密に分析しリピータを増やすための戦略を練っている。だからこそうまくいっているので、アンケートを取るのであれば、折角のデータなので、緻密に分析し、どういう戦略で行くかというところまで考えることが大事だ。

#### (委員)

ここに持ってきたのは金沢市の文化芸術活動支援の在り方に関するアンケートの用紙だが、色々なところに配られている。このQRコードをスマホで読み取ると、たくさん市の施設の情報がでてきて、しかもアンケートを簡単に書き込めるシステムとなっている。参考になればと思い持ってきた。

#### (座長)

私も金沢市のアンケートを書いてほしいと依頼されたことがある。南砺市の芸術文化振興計画にも関わっており、そちらもアンケートをするのだが、単に情報を集めるだけでなく、啓発するとか、色々な意見を交換するためにも行っている。最近のアンケートはメールに添付して簡単にできるようになっている。市にお任せというだけではなく、行政とは別にアート支援のNPOを作って自発的に行う取組みもある。射水でもそういった土壤があるのではないかな。



さて今日の話で印象的だったのは、せっかく射水らしさがあるのだから新しい視点を評価し、新しい価値を創造していこうという提案があったこと。

公共施設を廃止していく流れの中でも、統合する中で何か新しい価値を生み出すような仕組みや仕掛けを作っていくことが大事。それがハード面ではできなくても、アートNPOのような組織によってみんなで推進していこうという取り組みに発展する可能性もあるのではないかと思った。

本日の意見については事務局でまとめて、次回の会議に提出し、最終的に報告書にまとめることになる。